

DX お悩み相談室

第3回 「ノーコードツールはIT人材不足を救う?」のお悩み

ノーコードツールはメリット大。
ただし、注意ポイントも!



Cさん(経営者)…最近、専門知識がなくてもアプリやウェブサイトをつくれるという「ノーコードツール」の宣伝をよく見かけます。わが社ではホームページを刷新したいと思っているのですが、ITに詳しい社員がいません。外部のシステム会社に頼もうと思っているのですが、ノーコードツールを利用すれば自社内でなんとかできるものでしょうか。

柴山…ノーコードツールはアメリカ発祥といっても過言ではないですが、そのルーツはウェブサイト作成だと言われているんですよ。

Cさん…へえ、そうなんですか。じゃあ、ホームページ作成にはノーコードツールは向いているということですか。

柴山…はい、向いています。ノーコードツール利用の利点は、開発のインシタルコストを下げられることと開発期間を大幅短縮できることが大きいですが、それに加えて、改修の自由度が上がります。企業のホームページの場合、ボタンや画像表示などの配置を変更したいと思うことが結構ありますよね。ホームページ作成を外部の会社に任せる、「このボタンの位置を移動したい」というようなちよっとした改修でも、すぐには対応してもらえない可能性があります。しかし、ノーコード

ツールを利用して自社で作成すれば、改修も自分たちでいつでも自由にできます。

Cさん…なるほど! 今は営業部の意見をECサイトに反映したいと思っても、時間もお金もかかるので簡単にはできません。自分たちでスピーディに対応できるのはメリットを感じます。

柴山…アメリカの企業は、社内にITの専門家を抱えている割合が日本と比べてかなり高いです。いちいち専門部署やシステムベンダーに頼まなくても、担当者レベルで改修できるのでスピーディで効率がいいよねというのが、ノーコードツールの始まりです。その後、他の業務効率化ツールの作成などにも活用範囲が広がっていったようです。

Cさん…そもそも、ノーコードツールってどんなものなんですか。今さらお恥ずかしいですが、漠

然としかわかっていなくて。

柴山…一言で表現すると、サーバーやネットワークなどの環境構築やプログラミングなどのアプリケーション開発の知識がなくても、マウス操作だけでウェブサイトがつけられるツールです。家づくりに例えれば、従来のシステム開発は、設計士と相談して一から設計図を描いて素材や構造を選んで建設するオーダーメイドの家づくり。一方ノーコードツールを活用したシステム開発は、あらかじめ用意されたパーツを組み合わせてつくるツールバイオーの家づくり。カスタマイズには限界がありますが、開発コストが安く工期も短くつくれます。Cさんも、子どもの頃にブロックを組み合わせておもちゃの家をつかった経験がありませんか? あれに近いイメージです。

Cさん…ああ、やりました! だから、専門知識がなくてもつくれるわけですね。ホームページ以外にはどんな分野で活用できますか。

柴山…おすすめは、業務効率化分野での活用です。例えば、営業部門が顧客管理システムを自分たちが使いやすい形でつくるようなケースです。外出先でスマートフォンやタブレットから商談結果を入力し、フォローアップメールが自動送信できるといったシステム構築は、ノーコードツールで可能です。また、在庫管理システムなども向いていると思います。

Cさん…そういうものが簡単に安くつけられるな

ら、すぐく使えそうな気がします。ただ、そうは言ってもデジタルの知識がない人間が使うと、問題が起きそうな気がします。

柴山…それはおっしゃるとおりです。まずは、デジタル化の肝である「データ」について、データベースの基本的な構造や正規化などの基本概念は理解しておいてほしいところです。そのうえで、ノーコードツールの利用で気を付けたいポイントは、大きく3つあります。まず1つは、ガバナンス。比較的簡単に誰でもつくれてしまうので、きちんと全社的な管理をしないと、同じようなシステムを各部署でバラバラにつくってしまう、データの整合性が取れなくなって逆に非効率になる恐れがあります。

Cさん…顧客管理システムを営業部とマーケティング部でそれぞれつくってしまい、二重管理になってどっちのデータが最新なのかわからなくなるようなケースですね。

柴山…そうです。2つめは、セキュリティ。社員の個人アカウントでツールを使ってシステム構築した場合、その社員が退職したときの対処や機密情報の漏洩防止など、アカウント管理が非常に重要になります。さらに3つめが属人化問題。ノーコードツールでつくったシステムは、つくった人しか詳細がわからないということが起こりがちです。そうすると、その人が異動したり退職したりすると、システムが機能停止して、最悪の場合

合には業務がストップする、というようなことが起こりえます。

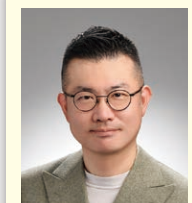
Cさん…とてもありそうで怖いですが……。

柴山…計画なしにツール開発を行うと先に挙げたようなリスクが顕在化する可能性もありますが、過剰に恐れたり考えすぎたりして計画倒れに終わるのはもったいないと思います。うまく使えば業務効率化を低コストで行えますので、基本の教育と管理のポイントを押さえたうえで、まずは実際に手を動かして小さなお仕事から始めてみることをおすすめしたいと思います。

ノーコードツールでのシステム開発は、
パーツを組み合わせていくイメージ



回答者



柴山治
(しばやま・おさむ)
デジタル戦略プランナー/
株式会社YOHACK CEO



米国ワシントン大学 経営学修士課程(Global Executive MBA)修了。ITベンチャー、コンサルティングファーム、外資系生命保険会社等を経て、現在は株式会社YOHACK代表。企業の成長フェーズや課題に応じた、テラーメイドの支援を提供している。著書に『日本型デジタル戦略』等がある。

※DXに関するお悩みは、どんなことでもお気軽にご相談ください。